

HPCI準備段階コンソーシアム代表幹事コメント

この度公表されました2011年ゴードン・ベル賞において、「京」コンピュータを用いた「『京』による100,000原子シリコン・ナノワイヤの電子状態の第一原理計算」が最高性能賞 (Peak Performance) を、また、TSUBAME2.0を用いた「TSUBAME 2.0スパコンにおける樹枝状凝固成長のフェーズフィールド法を用いたペタスケール・シミュレーション」が特別賞 (Special Achievements in Scalability and Time-to-Solution) を、それぞれ受賞されたことにつきまして、国内の計算科学関係コミュニティを代表してお喜び申し上げます。

今回の実アプリケーションによるペタフロップスを越える実効性能の達成というすばらしい結果は、シミュレーションによって新しい世界を切り拓く可能性が現実になったことを示すもので、これから「京」やTSUBAME2.0を利用してさまざまな成果を上げようとしている研究者、技術者の方々を大いに刺激し、勇気づけるものと確信しています。

また、今回のゴードン・ベル賞は最終候補5件のうち、残り3件にも奨励賞 (Honorable Mention) が授与されるという前代未聞の大激戦だったと聞いています。その中で受賞は例年以上の価値があるとともに、奨励賞 (Honorable Mention) を授与されたTSUBAME2.0を用いた「マルチフィジクス血流動力学シミュレーション」を含め、最終候補5件のうち、日本勢が3件を占めるという快挙が実現したことは、日本が、「京」に代表されるシステム構築技術のみならず、アプリケーションを用いたシミュレーション技術でも世界トップクラスであることを示すもので、大変に喜ばしく思っています。

現在整備を進めているHPCI(ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ)を構築することで、「京」やTSUBAME2.0が持つポテンシャルをさらに広い範囲で活用することが可能になるとともに、日本全体の計算資源が有機的に結合されることでその価値をさらに高めることにつながります。今回のような素晴らしい成果を続々と生み出すためにも、HPCIはそのための重要な基盤として大きな期待が寄せられています。

HPCI準備段階コンソーシアム代表幹事として、このコンソーシアムの参画機関とともに、HPCIを通じた計算科学の成果を大きなものとする枠組みの構築を今後とも積極的に進めていきます。

平成23年11月18日

藤井孝藏

HPCI準備段階コンソーシアム代表幹事

JAXA 宇宙科学研究所教授・副所長